

七月一日 伊藤廉は東京芸術大学助教教授兼本校助教教授に任命される。

七月二十七日 上野直昭は東京芸術大学東京美術学校長および同東京音楽学校校長兼務を解かれる。村田良策は東京芸術大学美術学部長に任命され、本校校長および東京芸術大学美術学部附属工芸技術講習所長兼任を命ぜられる。

同月三十一日 谷信一、山本豊市、菊池一雄は本校講師兼東京芸術大学講師に任命される。

同日 熊本正男は文部事務官に任命され、東京芸術大学附属図書館事務長を命ぜられる。

八月一日 藤田亮策は東京芸術大学附属図書館長に補せられる。西本順は東京芸術大学厚生課長を命ぜられる。

同月三十一日 浅野陽は本校講師に任命される。文部事務官毛塚真一、渡辺洋、若林作司は本官を免ぜられ、文部教官に任命される（毛塚は東京芸術大学助手兼本校助手。渡辺、若林は本校助手兼東京芸術大学助手）。

十月一日 上野直昭は本官（国立博物館長）を免ぜられ、文部教官専任となり東京芸術大学学長に補せられる。

十一月五日 中村登一は依願免本官となる。

十二月二十日 山本学治は本校助教教授に任命される。

十二月三十一日 本校教授小塚新一郎は東京芸術大学教授に配置換えされる。

③ 本校最後の職員の顔触れ

氏名	担当学科	略歴
上野直昭	美術史	東京帝国大学大学院（心理学専攻）満期退学
和田英作	名誉教授	私立明治学院中途退、黒田清輝、久米桂一郎両氏の所設にかゝる天真道場にて洋画修業 東京美術学校卒業
結城貞松	同	東京美術学校日本画科卒業 同校西洋画科二年級にて事故により退学
石田英一	鍛金実習及制作法	東京美術学校鍛金科卒業
海野清	彫金実習 製作法	東京美術学校金工科卒業
平櫛倬太郎	木彫実習	大阪に於て中谷省古に就き木彫を学ぶ 東京に出て高村光雲に師事する
小林茂	日本画実習	東京に出て梶田半古に就きて日本画を学ぶ 歐洲を巡遊して泰西美術を研学帰朝す
安田新三郎	日本画実習	小堀軯音に就きて画事を学ぶ
石田 ^井 鶴三	塑造実習 木彫実習	東京美術学校彫刻科選科卒業
安井曾太郎	油画実習	浅井忠洋画塾に入門後関西美術院に学ぶ 渡仏、巴里、アカデミー・ジュリア

磯矢陽	吉田五十八	西本順	日下喜一郎		西田正秋	内藤春治	岡田捷五郎	村田良策	松田権六	松田義之	広川松五郎	梅原龍三郎	
漆工実習	建築製図	英学概論	教授法	美術解剖学	自然科学	鑄金実習	建築構法 一般建築設計	英語学	漆工実習 製作法	工作実習教授法 及教授練習法	図案実習	油画実習	
東京美術学校漆工科卒業	東京美術学校図案科第二部卒業	京城帝国大学法学部哲学科卒業	東京美術学校日本画科卒業		東京美術学校西洋画科卒業	東京美術学校鑄造科選科卒業	東京美術学校図案科第二部（建築裝飾）卒業	東京帝国大学文学部哲学科卒業 同大学院へ入学（美学専攻）	東京美術学校漆工科卒業	東京美術学校図画師範科卒業	東京美術学校図案科卒業	浅井忠氏・洋画研究所（後に関西美術院と改称）に入所 渡仏・巴里に留学帰朝 渡欧南仏及伊多利に遊学	ンにてジャンポールローランズに師事す

寺田春弐	前田泰次	吉村順三	久保守		碓伊之助	菅原安男	田中文雄	山本正義	脇本十九郎	新規矩男	吉川逸治	小場恒吉	丸山義男
油画実習	金工史	近代建築史 建築製図	油画実習		油画実習	木彫実習	日本画実習	日本画実習	西洋美術史 日本美術史 国語	西洋工芸史 西洋美術史 語	西洋美術史 語	日本文様史	鑄金実習 製作法
東京美術学校油画科卒業	東京帝国大学文学部（宗教学、宗教史学）卒業	東京美術学校建築科卒業	東京美術学校西洋画科卒業 昭和五年渡欧仏蘭西、伊太利、独逸、白耳義、和蘭、英義利、西班牙等に遊学		故大下藤次郎の日本水彩画研究所に入所 大正十二年、渡欧、再渡欧、アンリマチスに学ぶ	東京美術学校彫刻科木彫部卒業	下谷区上野太平洋洋画研究所、小茂田青樹に師事す	東京美術学校日本画科選科卒業	京都市立美術工芸学校四年中退 国民英学会英文学科卒業	東京帝国大学文学部、美学・美術史学科卒業	東京帝国大学法学部政治学科、文学部美学・美術史学科卒業	東京美術学校図案科卒業	東京美術学校鑄造科卒業

笹村良紀	塑造実習	東京美術学校彫刻科塑造部卒業
山脇洋二	彫金実習	東京美術学校金工科彫金部卒業
入谷昇	塑造実習 木彫実習	東京美術学校彫刻科卒業
小池岩太郎	図案実習	東京美術学校工芸科図案部卒業
内藤四郎	彫金	東京美術学校金工科彫金部卒業
末田利一	図案	東京美術学校工芸科図案部卒業
浅野陽	漆工	東京美術学校工芸科漆工部卒業
品田慎一	鍛金実習	東京美術学校金工科鍛金部卒業
六角頼雄	漆工	東京美術学校工芸科漆工部卒業
中村正義	総務課長	私立京北商業夜学校卒業
大友春松	会計主任	
蒔田宗次	金属材料学	東京高等師範学校卒業（本科数物化学部）
関野克	東洋建築史 西洋建築史	東京帝国大学工学部建築学科卒業
加藤鬼頭太	塑造実習	東京美術学校彫刻科卒業
石沢正男	日本工芸史	東京帝国大学文学部美術史学科卒業
石橋啓十郎	書道史	広島高等師範学校教育科卒業
中村伝治	建築材料学 建築施工法	東京帝国大学工科大学建築学科卒業
尾上八郎	書道	東京帝国大学文学部大学院に芸術心理学研究修了

鈴木清	図学	東京美術学校図画師範科卒業
寺内万治郎	油画実習	東京美術学校西洋画科卒業
奥村義三	日本画実習	梶田半古、小林古徑に師事す。
羽石弘志	日本画実習	神田順天中学校を中退（病気のため） 小堀鞆音、後安田靱彦に師事す。
村田茂男	日本画実習	小石川区下富坂町川端画学校日本画科卒業 小林古徑に師事す。
川合清	日本画実習	東京美術学校図画師範科卒業
山崎三郎	力学 建築構造学	東京帝国大学文学部哲学科美学及美術史科卒業
水谷武彦	構造原理	東京美術学校図案科第二部卒業
鈴木信一	鑄金実習	東京美術学校工芸科鑄金部卒業
田中芳郎	鍛金実習	東京美術学校工芸科彫金部卒業 同校全科研究科修了
伊藤廉	油画実習	東京美術学校西洋画科卒業
吉野富雄	漆工史	東京美術学校漆工科卒業
兼子秀賢	図学	東京美術学校図画師範科卒業
後藤年彦	彫金実習	東京美術学校金工科彫金部卒業
高田正二郎	図案実習	東京美術学校工芸科図案部卒業
中村登一	意匠演習	東京美術学校建築科卒業
桜林仁	心理学 教育学	東京帝国大学文学部大学院に芸術心理学研究修了

菊池 一雄	彫刻	東京帝国大学文学部美学美術史学科卒業
山本 豊市	彫刻	錦城中学校卒業、太平洋画会研究所入所
石川 栄耀	建築	東京帝国大学工科大学土木工学科卒業
佐藤 謙三	音楽	官立東京音楽学校本科器楽部卒業
渡辺 武夫	師範油画	東京美術学校油画科卒業
清水 正雄	漆工	東京美術学校漆工科卒業
渡辺 洋	日本画	東京美術学校日本画科卒業
村田 徳松	彫刻	京都市立美術工芸学校卒業
若林 作司	補作員	金工師柴崎由太郎氏に就きて学び大正十五年自営す。 彫金家駒宮種二郎氏（春岳）のもとにて彫金の研究をなす。
石川 信夫	同	盛岡工業専門学校機械科卒業
毛塚 真一	同	東京文理科大学文学部哲学科卒業

（大学設置要項文書綴所収「現在経営してゐる学校の現況」より。）

一部訂正、加筆）

④ 最後の校長村田良策

昭和二十四年七月二十七日、村田良策は東京芸術大学美術学部長兼東京美術学校校長兼東京芸術大学美術部附属工芸技術講習所長に任命された。昭和二十七年三月三十一日、東京美術学校廃校とともに

校長の兼務を解かれる。

村田は明治二十八年栃木県佐野市に生まれ、大正八年東京帝国大学文学部美学美術史学科を卒業。昭和十年まで法政大学、東洋大学の教授をつとめ、また、同八年から同十五年まで文部省社会教育局嘱託講師をつとめた。東京美術学校では大正十一年四月から英語の講師に任ぜられ、同十三年九月にはさらに美学、西洋彫刻史授業を増嘱され、同十四年四月からは英語、美学、色彩学を担当。同十八年五月教授に就任し、同年八月生徒主事兼務となった。東京芸術大学に三十七年一月まで在職し、その間、二十六年六月には神奈川県立近代美術館初代館長に就任している。

このように四十年間という長い間勤続した村田は、退官の頃それを振り返って「美術学校と私」『現代の眼』第八十六号。昭和三十一年一月）の一文を書いている。それによると本校では矢代幸雄が留学したあとの講義を板垣鷹穂と加藤成之が担当したが、加藤も間もなく留学することになったので、大学院生だった村田に後任を依頼したのだという。次の文を読むと、苦勞もあったとはいえ、村田が本校教師という仕事を好んでいたことが推測される。

〔上略〕ともかく親のすねかじりで勉強でもあるまいと、親への見得もあつて加藤君の話にのり、結局研究室通い半分上野通い半分と中途半端なつとめをすることになった。正木校長にお会いしたら将来の私の希望など訊かれた。結城素明先生にも会ったらしいとのことであつた。あとでわかったことだが学科の講師の手当は主任級の先生たちの俸給のあたまをはねて下さったということ